

◎「中世山城」は、どのような構造で何のための 施設であったのか？ 「猿野城」から考える…

過日3月3日、三崎小学校6年生の社会科出前授業を実施した。中世山城の導入授業の後、下益野にある猿野城跡をフィールドワークした様子については、前号(第56号)で紹介させていただいた。今日は、この授業内容について、一般市民向けにもう少し詳しく紹介させていただきたいと思い本号を作成した。

(1)中世山城とは？

中世とは、概ね鎌倉時代以降から安土桃山時代までを指すが、土佐清水市域に山城が設置されたのは、主に室町から戦国時代にかけてのことである。市域には21城跡が確認されているが、市街地にあった清水城跡が開発のため破壊されているので、現在あるのは20城跡である。今回の『新市史』編さんにおける山城調査を市史編集委員・松田直則氏(高知県立埋蔵文化財センター所長)が担当し、すべての調査完了が本年度中(今月末)の予定である。

当時の戦は、戦車や爆弾を使用して破壊・殺戮を広げるといったような戦争ではなく、刀や鎧・弓矢等を使用したもっとのどかな戦いであった。それに比べ現在の戦争は「核使用」も脅しで示唆するなど殺伐とした悪魔の所業である。

当時の戦は、食糧もそうそう敵地である侵攻先に易々と運べるものではない。せいぜい2~3日分の食糧輸送が限度で、故に長期戦は無理があった。また、**足軽(歩兵)**は、平時は農耕民であり、戦時に足軽となった。ゆえに、どうしても**4~9月頃までは米作りのため休戦となってしまう**。冬は寒冷な日が多い。そう考えると、戦ができる日は意外と少ない。山城は、敵が攻め込んできたとき、食糧や水を携帯し、敵がいなくなる2~3日をやり過ごす、**いわば避難所のような性格**があったのではないだろうか。そういうイメージで山城を捉えると腑に落ちる。

(2)鉄砲伝来以降~近世城郭へ変遷

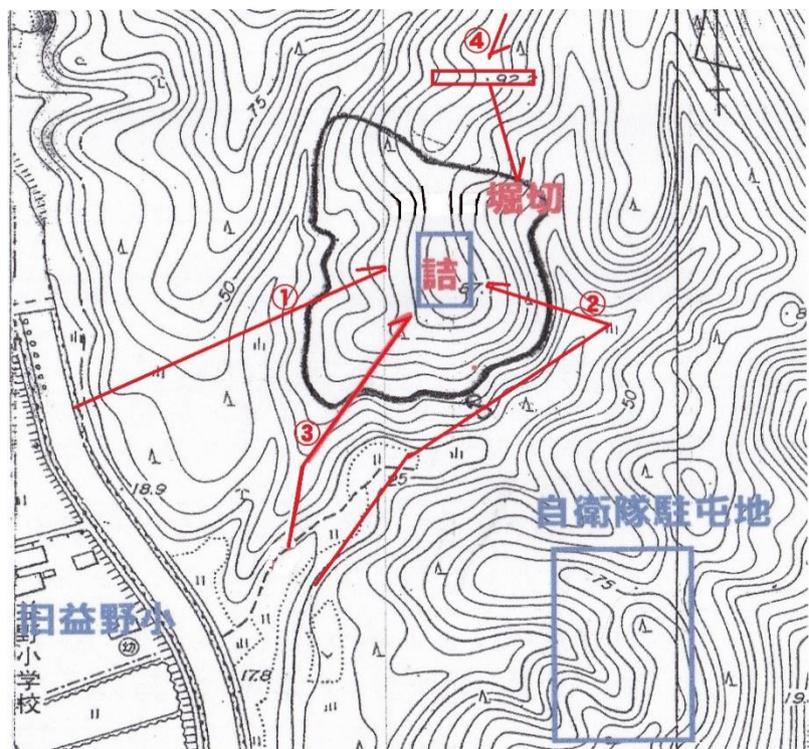
中世山城は、姫路城や高知城等のような近世城郭とは異なる。これらが石垣や漆喰(しっくい)で造られた**石の城**であるのに対して、中世城郭は地形を削り造られた**土の城**である。中世城郭から近世城郭に変化した原因として火縄銃等の鉄砲伝来の影響を挙げることができる。鉄砲の攻撃を防ぐための変遷である。1543年種子島に漂着したポルトガル人によって土地の領主**種子島時堯(1528-1579)**が**2挺の火縄銃を購入**する。その価格は現在の貨幣価値に換算して1挺2億円という説もある。

時堯は、この2挺の火縄銃を基に**刀鍛冶・八板金兵衛に模倣し、作製させた**。金兵衛は、研究に研究を重ねたがどうしても「**ネジの作製技術**」で行き詰まった。そこでオランダ人にその教を請うた。オランダ人は「(金兵衛の)娘・若狭(わかさ)を自分の嫁にくれたらそれを教えよう」と言った。結果、自分の娘をオランダ人に嫁がせ、その技術を習得した。その製造技術は、堺の国友等の刀鍛冶に伝播され、多くの鉄砲鍛冶を生み、国内生産が可能となった。日本初の鉄砲を使用した戦は、1575年の長篠の戦い(織田信長と徳川家康連合軍VS武田勝頼)とされているが、それは誤りで1549年の薩摩・黒川崎の戦い(島津氏VS肝付氏)が初めての戦いであった。

(3)加久見氏家臣・蔵松(倉松)氏の造った「猿野城」の役割

猿野城は、土佐国仁淀川以西から南予にかけて領有した公家大名・土佐一条氏外戚である加久見氏の重臣蔵松源左衛門(蔵松亀太夫の説もある)の居城と伝わる。

右の図をご覧くださいと概ねの城の構造が理解いただけると思う。猿野(ましの)城跡は、単郭の「詰(峰上にある平地)」と「堀切」から構成されている。これをよく観察してみると、長い尾根筋は左右が急傾斜地であり、①や②の方向からは攻撃しにくい。また、③の方向で尾根先から下から攻め上がることは、攻める側にとっては不利である。



そう考えたとき、攻めてくるとすれば、別の尾根筋から山頂付近に上がり、尾根筋に沿い④の方向で上から下の「詰」に向かい攻め下った方が戦略的には有効である。尾根途中に空堀された「堀切」は、尾根筋に沿って上から敵兵が侵入してくることを防ぐために設置されたものだ。

(4)市域に残された中世山城の保存・活用を考える！

市域には、室町から戦国時代にかけての造られた中世山城 20 城跡が確認されていることを(1)で述べた。『新市史』では、通史編と資料編にその縄張図を掲載し、山城の構造や見どころ等を広く市民に周知し、その歴史的・文化的重要性を啓発していきたい。

また、日本ジオパークに認定されている土佐清水市にとっても、非常に重要な遺産

であり、後世に語り継ぐ遺跡であるとする。当教育委員会生涯学習課としても公民館と連携して山城講座等を積極的に展開し、その活用を広げていきたい。

市域・中世山城分布図



猿野城の「堀切」部分



猿野城の「詰」部分

【編集後記】この週末は、四国でも瀬戸内側を中心に黄砂が舞い、春霞のような状態が続きました。花粉も飛散し、花粉症の症状も個々に見られます。冬から春に移り、寒暖差が大きく、体調を崩しやすい。コロナウイルス感染はもちろん、風邪にも十分ご注意ください。今年は、桜の開花はいつごろになるのでしょうか。コロナ過の終息と安心して花見ができる日が待ち遠しい。(田村)